

## 「言葉の遅れ」について

平成30年10月放送

深川 典子

言葉が出ない、言葉が増えない、言葉がはっきりしない。2歳を過ぎたころ、自分の子どもの言葉が遅いと、周りの子がみんなペラペラに思えて焦ったりするものです。

でも、あまり心配しないでください。確かに大抵の子どもは1歳半くらいまでに話し始めますが、これは「標準」であって、半数はその「標準」よりも遅い子、ということになります。

子どもの言葉が遅いかなと心配な時は、「言える」言葉だけにとらわれなくて、言葉の基礎になる力が育っているかどうかをみてみましょう。子供がお話しを始めるために必要な力をご紹介します。

まず最初に「耳がいい、いろんな音に気づく」こと。耳から入ってくる音や声が、言葉の学びの源になります。

次に「こちらの言うことがわかっている」こと。例えば、「ゴミポイして」というと捨ててくれる。「お出かけするよ」というと玄関に行って待っているなど、周りからの話しかけがよくわかっているれば「言えること」の基礎となっていくます。

3つ目に「よく声を出す」こと。言葉を言うには、声が上手に使えるければ



なりません。何かを見つけて「あっ、あっ！」といったり、遊んでいるときにごによごによとおしゃべりしているようであれば、上手に声を出す練習をしているのかもしれない。

最後に「大人と遊ぶのが好き」なこと。大人と遊んだり頼ったりして関わろうとする気持ちは、声や身ぶりを真似したり、大人と同じものを見る力を養います。このような人への興味・関心が言葉の基礎になっていきます。

これらのことが概ね大丈夫そうだと思うたら、待っていればだんだんと言葉が増えてくることと思います。あまり心配せず楽しく遊びながら過ごしましょう。その中で沢山話しかけてあげてください。

でも「話しかけて」といわれても、どうしたらいいか困ってしまうかもしれません。例えばお世話をするとき、パンツをはかせた後に「はい、はけました！」と言ってみたり、ご飯を食べさせるときに「お口、あーん」といったり。また、ジャンプに合わせて「ぴょん!」、ボールを転がして「ころころころころ」など、生活や遊びの場面での、普段の言葉かけを少しだけ増やしてもらえば大丈夫です。「おはよう」「お休み」などのあいさつも立派な声掛けですし、感情に寄り添って「うれしいね」「おいしいね」など、気持ちを代弁してあげるのも良いと思います。

言葉の発達は、全体発達の反映です。体や心の成長と関わり合いながら育ちます。ですからどうか、言葉の発達だけにとらわれず、子どもと一緒に遊んで笑って、いろいろな経験をさせてあげてください。

そしてもしご心配な点があれば、お気軽に専門の機関に尋ねてみてください。一人で悩まず周りのいろいろな人の手を上手に借りましょう。子どもは社会の宝ものなのですから。